

COVID-19に克つ
本を読む
街に出ないぞ
既刊本セレクト
この本、読み落していませんか

安田純生
現代短歌
用語考



現代短歌に多用される特殊な表現、支那表現、古語など、現代の日常語で表現し、その意味や用法を解説する。用語考は、意味や用法に重点を置く。用語考32冊に著目、解説する！

H9刊 本体1900円

安田純生
歌ことば
事情



H12刊 本体1905円

邑書林

Tel 06-6423-7819
661-0033 兵庫県尼崎市
南武庫之荘 3-32-1-201
younohon@fancy.ocn.ne.jp

たような感覚を覚える三首目、何れも詩としての歌の豊かさがある。
(令和2年9月10日 飯塚書店 税別一八〇〇円)

□吉岡生夫著『小谷博泰の百首』と
きとして異界』を読む』

小谷作品の愛唱歌や注目歌を著者が受けとめ、コンバクトに纏められている。一例を挙げておく。

X字エスカレーターですれ違つた
たあれは俺だよ もう見えない
が 『季節の手毬唄』

この歌を「初句『X字』の『X』は上りと下りのエスカレーター、アル

ファベットの文字で比喩したところが凄い。この交わるところで三句「すれ違った」のである。こういうのをドッペルゲンガーという。」と説明する。小谷ワールドは独特で深い。ゆえに読者層が限定されるであろう。本書はその魅力を引き出し、広く一般にわかりやすく伝えている。

(令和2年10月10日 アイソリネーション 税別一〇〇〇円)

□加藤孝男・田村ふみ乃著『歌人中城ふみ子 その生涯と作品』

中城ふみ子生誕百周年記念出版。
鮮烈な歌を残し、女性短歌の先駆者

歌集歌書を読む

鈴木英子

□服部みき子歌集『シンクレール』

三月の夜の散歩はほろ酔ひの地球の肩を借りつつゆかむ
「ほろ酔ひの」で一拍おいて読んで
も、「ほろ酔ひの地球の肩」と読んでも楽しい。大きな視点をこまやかな表現で支える歌は爽快である。
旅しても何ほどもなしといふことは
とを知るには旅をせよとや釈迦
は
うつくしき老いを湛ふるよこが
ほは口絵写真のヘルマン・ヘッセ
一首目。思考を巡らせるより入ってゆくことの価値。イストラエルへの旅の連作に繋がるものを見られる。

歌集名はヘッセの『デミアン』の主人公の名だが、他にも味のある人名の歌が印象深い第一歌集。
青紫蘇と荏胡麻 この世は似て
非なるものの違ひを味はふところ
釘づけになる。なんて愉快なんだ。
そして本当に味わうことは案外と難しいことだぞ、と口中を意識した。

(令和2年9月26日 六花書林 税別二〇〇〇円)

□小林真代歌集『ターフ』

冬枯れの木立の写真あらずして
みづみづと樹木図鑑は立てり
いわき市在住の、ほとんどの歌が東日本大震災後に作られたという第一歌集。確かに図鑑の樹木は人間で言えば若者であり、老いたものは見当たらない。人間の視点への齟齬。
松林の塩害を説かれつつ昏きその松林わたしにもある
その説かれる痛みにも内側の痛みが

であるふみ子をどこから読めばいいかという人の手引き書として役立つのみならず、研究者も押さえておきたい好著。多くの文献に当たった上で記されていて、貴重な写真や作品の初出、略年譜が親切だ。

「短歌研究」五十首応募作品の衝撃、「乳房喪失」の構成、シユルレアリスムと戦後短歌、中城ふみ子と与謝野晶子、中城ふみ子と現代短歌、中城ふみ子の作品解説など9章から成る。気軽に読んで、ふみ子の核の部分に触れることができる。
(令和2年10月31日 クロスカルチャー出版 税別一八〇〇円)

触れた。わたしにも、と。少しずつ発せられた声がまとまりとなり、ひとつそりと動かない一冊となった。
どこへでもゆけるおまへをどこまでも追ひゆかむ甲状腺検査は
震災で天井が落ちてしまひしを
この店らしいと言へばそれまで
二首目の店名が「J.P.P.」。人の喪失も場所の喪失も畳みこむように大切に詠われ、震災前の時間がたままのように響く。「塔」所属。
(令和2年9月26日 青磁社 税別二五〇〇円)

□高柳落子著『短歌の酵母Ⅲ 青じや青じや』

帯に「新しい歌論」とある。特異なのは「みんなが思い思いに歌を詠んだその結果のなかに傾向のようなものを見つける」方法である。「みんな」は万葉集から現代までの歌詠み。近現代短歌については、約十萬首収録したデータベースがあるとい

『短歌』2021.3月号(河川書房刊)